

U10a 宇宙の姿と物質構造を考える

藤原ケイ

筆者は ”133P (エルストピサロ彗星) と木星が外合のとき 太陽黒点発生は極大になり、内合のとき極小となる ” という興味ある関係に気付きその背景等について検討してきた。この関係が確実なものであると証明することは困難であるが、太陽系の外縁から太陽に向かう「向太陽循環水流」等を仮定すると 合理的に理解することが出来る、との考えに至っている。

すなわち ” 太陽風によって放散された原子類が 途中または太陽系外縁で分子化し、主に可溶性ガスを溶かし込んだ H₂O となって 太陽に還流する流れが恒常的に存在 ” し これが太陽の黒点を発生させていると考える。太陽から出た物質が太陽に戻ってくる！

太陽系内の物質系は閉じている？!

このイメージを進めると 太陽系内の物質は太陽が起源かもしれない！ となるだろう。

-

[3つの視点]

1. 太陽黒点検討のきっかけとなった ” 黒点発生は外部起因かもしれない ”、
 2. 黒点検討での結論の ” 太陽系内物質系は閉じている ”、
 3. 筆者の独自研究からの ” 光子は自らを燃料として自力走行している ”、
- を足掛りにして 宇宙の姿および物質構造について考察する。